

ACE認定チャイルドマインダー養成講座

スタッフによる授業レポート





★ 「はじめに」

チャイルド minder 講座は、全24回の授業になります。
20回がチャイルド minder の学び、4回が小児救急救護法となります。
ここでは、下記カリキュラムの授業レポートをお伝えします。

A-1	チャイルドマインディングとは	C-12	こどもとのコミュニケーション
A-2	チャイルド minder の家庭支援	C-13	遊びの環境づくり
A-3	チャイルド minder の役割	C-14	遊びの実習
B-4	乳児のチャイルドマインディング	D-15	食環境づくり
B-5	乳児実習	D-16	こどもの健康管理
B-6	幼児のチャイルドマインディング	D-17	安全な環境づくり
B-7	学齢児童のチャイルドマインディング	E-18	チャイルドマインディングプラン
B-8	モラルとルールマインディング	E-19	ビジネスプランイントロダクション
B-9	現代のこども社会とその支援	E-20	ビジネスプラン・契約
C-10	セルフマインディング	①~④	小児救急救護法
C-11	親とのコミュニケーション		

★「チャイルドマインディングとは」(A-1)



初回の授業では、生徒さん同士でお勉強のきっかけや今後の展望などを発表しました。皆さん、本当に色々なきっかけや今後の目標がありとても素敵でした。

授業では、「チャイルドマインディングの理念」などはもちろん、

「保育のお仕事に携わる際に大切なこと」などを学びました。

このようなケースの時に、子どもさんについてこんな風に強く言ってしまう。

もしくは、このような場面を見たことがある。きっとそんなことがあると思います。

伝え方や見方を変えていくことで子どもさんに、「考える力が身についたり」

「自分のことを受け入れてくれた！」とってくれることもあるそうです。

そのように授業では、子どもさんへの接し方なども学ぶことができるため、

子育て中の方にもとてもおすすめです。子育てをされているからこそ分かるということも

たくさんあると思います。また、チャイルドマインダーを学んだ人で

お母様になられた方は、「問題解決能力も自然と身につけている」そうです。

★「チャイルドマインダーの家庭支援」(A-2)



子育て家庭を取り巻く社会環境も、
「核家族化、少子高齢化、女性の社会進出」などにより大きく変化してきています。

乳幼児期・学齡児童は、最も発達が著しい時期と捉えられています。
この時期の家庭環境や社会環境での体験や経験、興味の対象によって、
その後の生き方や価値観が子どもの人生に大きく影響を与えるそうです。
その中で、「チャイルドマインダーとして出来ることの役割」を発見し、
行動していくことの大切さを学びました。



子どもを取り巻く外的な環境を理解し、家庭支援をすることで、
子どもが主体的に生きる力を育むことにもつながっていくそうです。
こどものより良い発達には、「安心・安全・健康・多くの体験の場」が、
大切になるそうです。どのようなことが出来るかを考えながら学ぶとより理解が深まります。

★「チャイルドマインダーの役割」 (A-3)



授業を受けていると自然と子どもさんと関わりたいという気持ちになります。

今回の授業で1番印象的だったことは、

子どもさんは一人ひとり異なる存在であり、

常にその子どもさんを「みる」ということの大切さを学び強くその大切さを感じました。

ただ見るだけではなく、「みる」にも3通りあります。

それは、ぜひ授業で学んでみてくださいね。

また、先生のお話を聞いて、日常から子どもさんに関わりを持ったり、

これまで以上に子どもさんに目を向けていきたいと思うことが出来ます。

授業は、皆さん真剣に受講されながらも、もちろん笑顔や笑いもあり、楽しい授業です。

そして、授業を受けるとさらに不思議とパワーが湧いてきます。

きっと授業を受けられた方ならそれを実感して頂けると思います。

★ 「乳児のチャイルドマインディング」 (B-4)



最初は、「乳児さんってどんなイメージ？」からスタートしました。
皆さんは、どんなイメージをお持ちですか？

授業では、「乳児期の特徴」「乳児期の発達と成長を助ける環境づくり」などを学びました。
キーワードは、「8ヶ月不安」や「3ヶ月微笑」などです。

子どもたちは、「愛されたい」「認められたい」「褒められたい」「お役に立ちたい」
そのような想いを持っています。褒め上手になりましょう！ということで、
相向かいの方の良い所を見つけて褒め合いもしました。
褒めることは大切ですが、褒めるポイントを間違ってはいけないということが大切だそうです。

また、「事例対応ワーク集」を使って、グループワーク&発表を実施しました。
色んな方の意見を聞く事で、自分自身の視点も広がり、引き出しも増えていくため、
学んだことを今後も活かして頂くことが出来る授業です。

★「乳児実習」(B-5)



とても楽しみにしていた授業です！多くの生徒さんが一番楽しいというお声も多い授業です。
授業の実習では、沐浴人形を利用して、
「布おむつの畳み方、沐浴、お洋服の着脱、ミルク作りなど」を実施しました。

頭で分かっているのとも見るのと実際にやるのは違いますね。
先生にアドバイスを受けてたり、生徒さん同士でお互いに色々聞き合ったり
そんな風に真剣に楽しく実習をしました。
授業を振り返ってみて感じたことが、真剣になりすぎ、
沐浴の時も笑顔で出来ていないことを反省しました。



目で見て実際にやってみる、繰り返す、体でしっかり覚える、
赤ちゃんにとって心地よい沐浴やお着替えなどの時間を作る・過ごすことが
大切だなと感じました。

★「幼児のチャイルドマインディング」(B-6)



授業では、「幼児期の特徴」「発達と成長を支える環境づくり」「言葉かけ」などを学びました。

例えば、

- ・お友達に砂をかけてしまった子がいたら
 - ・キャラクターの絵の書いてあるテーブルの上に乗っていたら
- こんなケースの時、どんな声をかけますか？
つつい怒ってしまいがちのケースかもしれませんね。



授業では、そのような具体的なケースと共に、言葉かけについて学びます。

「考える力、自立性、自律性を育むこと」、そして「伝え続ける、し続ける、
問いかけ続け答えを引き出す」ことが大切だそうです。

実際に先生が教えて下さる言葉かけの仕方を聞いていると
自分自身の引き出しが増えていくことに繋がります。

★ 「学齡児童のチャイルドマインディング」 (B-7)



授業では、「学齡児童の特徴や発達課題」などについて学びます。
その中で、特に印象的であったことが、「生きる基礎」の部分です。

学齡児童期は、学習時期とも言われ小学校に入ることによって大きく世界が広がり、
人としての基礎を学習し、生きる力を培うことになります。



そこで、大切なことは「1：信頼性、2：自律性、3：自主性」であり、
「共に考えることや見守られている」という気持ちを持ってもらえることが大切だそうです。

先生が、手間をかけるのではなく、
「心」をかけることとおっしゃっていたことが、とても心に響きました。

授業では、そのような「言葉かけ・対応方法」を学びます。

★「モラルとルールマインディング」(B-8)



授業では、「社会にとってのルールとモラルとは」などについて学びます。
ルールは、自分も相手の身も守るものなので、とても大切なことです。
その中で、とても印象に残ったことが、「気付きを与える」ということです。

例えば、「ルールを守りましょうね」と声をかけてしまいがちだと思います。

- ・ 「自らルールを守って行動していくこと」
- ・ 「日常行動を守れるような環境設定をしていくこと」が大切だそうです。

また、子どもたちは、実は、しっかり大人の行動を見ているそうです。

自らがルールを守ること、子どもに気付きを与える言葉かけをしていくことが大切なのですね。

「日常的にこれは外せないというものを持つこと」も大切だそうです。

先生もあることを必ずされているそうです。

皆さん自身もこれは外せないというものを考えてみるのも良いかもしれませんね。

★ 「現代のこども社会とその支援」 (B-9)



子どもの社会環境は、
「家庭、教育現場、地域社会」などがあります。

授業では、「子どもの社会環境の中での問題と現象、背景」などについて学びます。
例えば、家庭での虐待、学校でのいじめこれらの現状や背景などを学び、
そこで、チャイルドマインダーとしてできること、どのように対応していくか、
問題に立ち向かう心・自尊心を育てる環境や要素などを学びました。
子どもが知らない人に道を聞かれた時にどうしたらよいかと、
子どもに伝える伝え方なども学びました。その内容は、ぜひ授業で学んでくださいね。

また、お出かけの際も所々に学びの場があるため、
色々な気付きを子どもたちに持ってもらう、多くの場を提供することが、
チャイルドマインダーに大切なことだそうです。

★「セルフマインディング」(C-10)



授業では、「自分を知る、理解する、受け止める、セルフコントロール」
これらのことを学びます。

「皆さんは自分自身のことをどのくらい知っていますか？」
きっと私は、自分のことをすごく知っている！という方もいらっしゃる、
全然自分自身のことを知らないかも・・・という方もいらっしゃると思います。

自分のことをよく知っている！という方もいらっしゃる、
自分自身のことを知らないかもという方もいらっしゃると思います。

授業では、「自分に気付く」ためのワークなども行います。
よりよい関係を作るには、自分をコントロールしていくことが大切であり、
我慢することではなく、今の自分に気付くことから始まるそうです。
だからこそ「セルフマインディング」が大切なのですね。



★「親とのコミュニケーション」(C-11)



チャイルドマインダーが、子どもと関わる時に望まれることの1つに、「良い人間関係」を結ぶことが挙げられます。

そのため、授業では「コミュニケーションとは、コミュニケーション能力、親とのコミュニケーション・情報交換」これらのことを学びました。

コミュニケーションとは、「共通な」+「分かち合う」=共通な事柄を分かち合い、そこに生じた誤解やズレを調整し相互理解を深めることが大切だそうです。

コミュニケーションの目的や種類と共に、連絡・デイケアレポートによる報告についてなども学びました。このようなことを学びました。
謙虚な姿勢・自分を振り返ることも大切なのですね。



★「こどもとのコミュニケーション」(C-12)



子どものコミュニケーション環境は、成長に伴い変化します。
人との関わりの中で、自立心など色々なことが育ちますが、
そこで大切なのが「安定した人間関係」なのだそうです。

そのため、授業では、「子どものコミュニケーション環境、子どもの心とふれあう、
ほめることと叱ること、子どものメッセージを受け止めること」これらのことを学びます。
また、何か出来た時に、「上手だね」ではなく、「具体的にほめること」が大切だそうです。

例えば、子どもに、「嫌だ〜！」と言われ泣かれてしまったら皆さんはどうしますか？

嫌だという時は、子どもの気持ちを代弁してあげる。

間を取る、余裕を持つ、考える、これらのことが大切だそうです。

一人一人の子を信じて可能性を広げること、そうするとその子なりに伸びていくそうです。

皆よいものを持っている。「宝探し」をしていくということです。

だからしっかりとその子を見ることが大切なのですね。

★ 「遊びの環境づくり」 (C-13)



授業では、「子どもの遊び環境、遊びが果たす役割、子どもと遊ぶ、子どもの感性を育てる」これらのことを学びます。「遊び」=「学び」です。子どもは、遊びの中で様々なことを学び、自分をつくりあげていくことや自分以外の人や自然に対する畏敬の念を学ぶそうです。現代の社会背景の中で子どもの遊びや文化が変化してきています。どのような社会背景あり、どんな風に遊びが変化しているのかも授業で学びます。

また、雨の日に、つい言ってしまいがちな、「雨、嫌だね」という言葉。でも見方を変えたらたくさんの方に気付ける機会だそうです。子どもたちにもたくさんの方を感じてもらえる場をチャイルドマインダーとして伝えていくためにも自分自身も感性を豊かにするということが大切だそうです。子どもたちの感性を磨くために、その子その子らしく、持っているものを花開くためにも、子どもたちへの言葉かけや対応の方法もとても大切ということなどを学びました。

★「遊びの実習」 (C-14)



授業の中では、事例対応ワークをグループで発表したり、考えた遊びの発表をしたりします。

皆さんそれぞれ、手作りのおもちゃ、紙芝居、手遊びなどを発表しますので、とても楽しい授業です。

同じクラスの生徒さんの発表などを見ることで、学びや気付きにも繋げて頂けると思います。

例えば、下記のおもちゃであれば、パズルを組み立てるときに、カエルさんはどんな鳴き声？ひよこちゃんの親は？など問題を出してみるのもさらに学びも深まりますね。



このように実際の遊びや、遊びからどのような学びに繋がるかなども皆で一緒に考えていきます。



実際の生徒さんの作品です！

★「食環境づくり」(D-15)



「子どもの食生活環境、子どもの食を育む、乳児の食育、離乳食と食事」などを学びます。

皆さんは、日々の食事の中でどんなことを感じますか？
食事を通して「楽しかった・おいしかった・満足した」
このような気持ちになれることは大切ですね。



食を通じてたくさんのことを子どもたちは学びます！
例えば、にんじん、たけのこなど色々な食材から学べること感じることはたくさんあります。

1つの物に対して様々なことを学び、その学びのために計画を立てること、
そして栄養・調理方法を考えることも子どもたちの学びにつながります。
そのため、子どもの食を育むこと、食べることの意味や喜び・楽しさを
伝えていけるような環境作りの大切さなども授業で学びます。

★ 「こどもの健康管理」 (D-16)



授業では、「こどもの症状別の観察とケア、現代のこどもに見られる病気」などを学びました。子どもは、症状などを的確に伝えることが難しいこともあるため、丁寧な観察が大切であり、子どもの『いつもとの違い』に気付き、早めの対応を心がけるということが必要です。

授業の中では、『発熱・嘔吐・けいれん』などそれぞれの症状・留意点・ケアの内容なども学びます。詳細については、ぜひ授業で学んでくださいね。現代のこどもに多く見られる病気として、「食物アレルギー、気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎」などがあります。

チャイルドマインダーは、子ども・親御さんの状況を理解し、少しでもそれらの問題を軽減するように努めることや親御さんと諸注意をよく話し合い、綿密な連絡調整をしていくことが大切になるそうです。

★「安全な環境づくり」(D-17)



授業では、「子どもを取り巻く生活環境、子どもの事故と予防・初期対応を考える、安全環境を考える、災害時の対応」などを学びます。

子どもたちが安心して行動できる、快適で安全な環境づくりを心がけていくことが大切です。そのため、子どもの本質的な傾向と子どもたちが抱える傾向を理解しておくことが必要になるそうです。

例えば、「雨が降っているから気を付けてね」と声をかけることも多くあると思います。しかし、これでは、子どもに何に気を付ければよいのかが伝わらないケースもあります。

そのため、「長靴を子どもに履いてもらい、いつもの靴と何が違うのかなどを一緒に感じてもらうような働きかけも大切」になるそうです。安全な環境づくりから言葉かけの大切さなどを学びます。



紙製の視野めがねやVRゴーグルを使って安全について学んだりします！

★ 「チャイルドマインディングプラン」 (E-18)



授業では、「チャイルドマインディングプラン」などを学びました。
基本的な子どもの1日を知ることは、チャイルドマインディングプランをより確かなものにするそうです。デイリープランの中には、もちろん遊びの設定も大切ですね。その中で、屋外&屋内をバランスよく組み合わせていくことがポイントだそうです。例えば、屋内の遊びの中で、子どもの製作品などでも色んな工夫が出来ることを学びました。

「子どもの一瞬の気持ち」が存在することがとても印象的でした。
それをプレゼントする。形あるものと想いを残す。すごく素敵なことだなと感じました。
遊びの場は、以前からも学んでいるように学びの場であるということです。

子どもたちに「何を知ってもらいたいのか、何を学んでもらいたいのかを考え」設定していくことが大切なのですね。ぜひ授業で学んだことを取り入れることで、とても楽しいプランを設定できると思います。お子さんの子育てにもたくさん取り入れられると思います。

★「ビジネスプランイントロダクション」(E-19/20)



授業では、保育のことはもちろんですが、開業に向けてビジネスのことなども学ぶ、チャイルドマイナーの授業の特徴でもあります。

事業をスムーズに運営していくために、
自分なりの事業システムを考える&構築するということが大切なのだそうです。
そして、自分自身が実現したいことを明確に整理することで、
多彩な特色あるチャイルドマイニングを構築すること繋がります。



授業では、「事業計画表、チラシ作成、契約、規約、マナー」などそれぞれのポイントなどを学びました。

中でも印象的だったことが、事業の『理念』は、確かな動機になるということです。
そのため自分が目指すことや、それに沿ったテーマを
しっかり考えていくことが大切なのですね。



★ 「救急救護①」

チャイルドマインダーの講座には、
「小児メディックファーストエイド（MFA）」が必修科目となり、
蘇生法と救護法の両方のスキルを12時間かけて習得します。

「小児救急救護法 1 回目」の内容になります。

授業では、「応急手当てプロバイダー、突然の心停止、
基本的なCPRのスキル」などを学びます。

印象的だったのは、『SETUP（セットアップ）』というキーワードです。
英語の頭文字から成る言葉が、安全手当てを出来るようにする
重要な要素になるそうです。授業で学んでみてくださいね。

★「救急救護②」



「小児救急救護法 2 回目」の内容になります。

授業では、「胸部圧迫、レスキュー呼吸、初期の評価、回復体位」などを学びます。

人形を活用して「乳児・小児・成人」と3パターンについて

実習を行うことやペアの相手を患者さんで見立てて、
意識なし・呼吸ありの際の回復体位の内容なども学びます。

実際にやってみるからこそ、分かることやこのような時は
どのようにしたら良いのだろうと思うこともあるため、
実習としての経験もとても大切です。

トレーナーの方からお伝えのあった「患部を見るのではなく、患者をみること」

その言葉を聞いて、以前にチャイルドマインダーの授業の中で、

「みる」ということの大切さを改めて感じました。



★「救急救護③」

「小児救急救護法 3 回目」の内容になります。

授業では、「自動体外式除細動器（AED）、異物による気道確保、
応急手当ての評価、重傷のケガの手当て」などを学びます。

実際にAEDを使ったり、チョーキングの際の手当ての方法などを実習します。
多くの皆さんが、駅や多くの人が集まるショッピングモールやホールなどで
AEDのマークやAEDを目にしたことがあると思います。

日頃からどんな場所にAEDがあるかをチェックしておくことや、
実習としての経験もとても大切です。

AEDは、「どのような時に使うの、パッドはどこに貼るの、
使用の際に注意することは？など」授業の中で学んで頂けたらと思います。

★「救急救護④」



「小児救急救護法 4 回目」の内容になります。

授業では、「ケガ、ヤケド、急病の手当」などについて学びました。

学習していることで冷静な判断や適切な処置ができるため、
しっかりと学ぶことで緊急時にも活かしていく事が出来ます。

また、突発的な病気の警告兆候では、

子どもたちのいつもの様子を知る、分かっていることが大切になるそうです。

他にも、『頭部の固定』やケガをした際の『2点固定』などを学びます。

どのような時に、頭部固定をするのか、

どのような点に気を付けるのかなどは授業で学んで頂けたらと思います。

★「最後に」



『子どもを主体とした子どもとの関わり方』

『一人の人間として多くの学びの場を』

『学んだことを1つでもよいのでやり続けること』

『経験が引き出しに繋がること』

を授業を通して先生から教えて頂いたと共に、改めてその大切さを感じました。

チャイルドマインダーの授業は、

*楽しい

*パワーが出る

*驚きと感動の繰り返し そのような授業です。

オーバーに聞こえるかもしれませんが、受講してみるときつと多くの皆さんが
そう思える素敵な授業です。修了生の方も多方面で活躍されています。

1人でも多くの方がチャイルドマインダーとして活躍されることを願っています。

★チャイルドマインダー担当スタッフより